



第452号

2025年 2月

〒461-0004 名古屋市東区葵2丁目6-35 カトリック名古屋教区広報部 電話 (052) 935-2223 FAX (052) 935-2254 news@nagoya.catholic.jp 印刷所 株式会社 荒川印刷 毎月第1日曜日発行



2025年 通常聖年 希望の巡礼者となつて 聖年をともに歩みましょう

教区ホームページ

福音のひびき	
2月の説教者	
2日	主の奉獻 岩崎 一二三 (布池教会)
9日	年間第5主日 オディロン・金一 (北陸ブロック富山地区)
16日	年間第6主日 山野 聖嗣 (港教会)
23日	年間第7主日 寺尾 総一郎 (膳棚教会)

能登半島地震災害

能登半島地震から、今年の元旦で1年がたち、9月の豪雨による「二重災害」からの再建、復興が困難な状況にあると言われる現状において、のとサポートセンター長の片岡義博神父から、今年も継続的支援の呼びかけの記事を寄稿いただいたので、添付のボランティアポスターと共に、原文のまま紹介する。

被災者とすべての人の希望につながる支援へ

カリタスのとサポートセンター センター長 片岡義博

あなたの小さな助けを必要としています

能登半島被災地ボランティア

1/15~4/13 (第4フェーズ) までボランティアしていただける方を募集しています！
個人でも・グループでも！お気兼ねにお申込みください！

～現在の主な活動内容～

- 七尾市内、輪島市内でのサロン活動「じんのひカフェ」(コミュニティ支援)
- 七尾市 民間災害ボランティアセンター「おらっちゃ七尾」との連携による活動(家族の片づけなど)
- 輪島市における他の団体との連携による活動(物資支援、送迎支援など)(活動内容は被災地の状況により変わる場合があります)

～1月からボランティア受け入れを大幅改定します！～

- 水曜日から日曜日までの受け入れが可能に！(火曜日からベース入り、日曜日活動終了まで)
- 宿泊は1泊から最大3泊までお好きな曜日で活動可能に！(日曜日・月曜日は宿泊できません)
- 日帰りのボランティアも可能に！(ただし、七尾ベースに朝7時半～8時の間に到着可能なこと)

～ボランティア申込はネットから～
下記のQRコードから、募集要項をよくお読みいただき、Google フォームよりお申込みください。名古屋教区ウェブサイト、「のとセン」ブログ Facebook からアクセスできます！

二〇二四年の元旦に起きた能登半島地震から早いもので一年が経ちました。この一年わたしたちの支援を支えてくださった、すべての皆さまに心より感謝を申し上げます。

今年一月一日、わたしたちは松浦司教とともに、輪島教会、七尾教会で神の母聖マリアの祭日ミサをそれぞれの教会の信者さんたち、また全国から訪れてくださった皆さんとともに捧げ、発災

時刻には昨年1年毎月欠かさずに行ってきた「ついでに」の祈り・ついでにの祈り」を地域の方々とともに捧げました。しかし、わたし自身がこの日受けたショックは、昨年とはまったく違う、お正月の過ごし方、言葉の交わり方でした。

ご家族で祈りの集いに来てくださった地域の方も、「地震の恐怖がトラウマになっているのか、自宅にいるのが嫌で来ませんでした」と話しておられま

した。あらためてこれから先、この元旦という震災発災日の節目の過ごし方、能登の人たちにとっても大きな意味をもつことを実感しました。

今年、全世界のカトリック教会は聖年を祝っています。教皇フランシスコの通常聖年公布の大勅書『希望は欺かない』の中で、キリスト教共同体が、福音化の急務によりふさわしく対応するために、ますます必要な表現だと自覚する、シノダリティ(ともに歩むこと)の姿を具体化するため、この聖年が大切な機会となることに触れられています。

わたしは、シノダリティは教会の中、共同体の中でともに歩む話だけではなく、旅する教会として、わたしたちが社会の中で、届かない声にしっかりと寄り添って、歩む姿勢が大切であり、求められていると思っております。私自身、身近なこの被災地支援を通して、これからの一年を大切にしながら、ついでにの希望、神への希望を際立たせる年に、皆さんと実現できたらと願っております。

現在、カリタスのとサポートセンターでは、七尾市内、輪島市内でのサロン活動(コミュニティ

ティイ支援、七尾市における民間災害ボランティアセンターとの連携による活動(主に公費解体前の家財の片づけなど)、輪島市における他の団体との連携による活動(物資支援、送迎支援など)をおこなっています。被災地では、まだまだ皆さんの支援の手を必要としておられます。一月からは水曜日(火曜日夜から宿泊可)から日曜日までの支援活動を拡大して受け入れを開始しております。詳しくは、サポートセンターのブログ、SNS (Facebook、Instagram等)をご参照ください。支援活動も随時紹介しております。

また、輪島では現在解体された教会敷地内に、新しい支援拠点を含めた新教会の建設準備を進めており、できるだけ早期の完成を目指しております。

多くの皆さまのご支援をいただきながら、また行政や民間の支援団体とともに、そして、何より助けを必要とされている被災者の皆さんとともに、歩みながら、すべての人に希望の力が満たされますように。

今後とも皆さまのご支援を賜りますよう、よろしくお願いたします。

正義と平和委員会 学習会「中東問題」

2023年10月からパレスチナでは戦争が起きています。その惨状はテレビで報道されている通り、見るに堪ええません。こんなことがどうして起きているのでしょうか。この難しい問題を根本から考えていきましょう。近代の歴史から初め、第三次中東戦争やオスロ合意を踏まえ、現今の問題に迫りたいと思います。

日時 3月11日(火) 10:30~12:00
会場 福音館2階(布池教会東)
アクセス 地下鉄東山線新栄駅から徒歩8分
地下鉄桜通線車道駅から徒歩8分
JR 中央線千種駅から徒歩9分
講師 浅野幸治(正平委々員 豊田工業大学特任准教授)
主催 カトリック名古屋教区正義と平和委員会
連絡先 浅野幸治 メールアドレス asano@toyota-ti.ac.jp
電話 090-8860-3627

チャリティコンサート

バングラディッシュ災害被害地域支援・エスナック里子(インド、ケニア、エチオピア) 居住地支援

日時 3月2日(日) 13:00
場所 カトリック瀬戸教会
(駐車場有り。会場案内は、各教会に配布するポスターを参照)
アクセス 愛知環状鉄道瀬戸市駅から徒歩5分
名鉄瀬戸線新瀬戸駅から徒歩5分
内容 聖歌、唱歌、歌謡曲、クラシックオルガン、ホルン、弦楽器演奏 等
参加費 無料ですが、支援のための献金をお願いします。
主催 エスナック分ち合いの泉基金
連絡先 攪上宏 090-3552-8662 (エスナック理事)
川口 080-5106-0127

2025年通常聖年開幕ミサ

昨年の聖家族の祝日(2024年12月29日)に通常聖年の開幕ミサが奉げられた。

名古屋教区では、この日、布池司教座聖堂の正面広場に司祭団、修道者、信徒たち約500人が集まり、扉が開くのを待った。9時30分になると鐘が冬晴れの青空に一齐に響き渡り、聖歌隊の歌う「希望の巡礼者」に合わせて、十字架を先頭にした司祭団の行列が入場してきた。松浦悟郎司教の開幕の言葉、福音朗読(ヨハネ14章1-17)、大勅書「希望は欺かない」

から一節が読まれた後、行列は扉に向かう正面の階段を登り、司教によって開かれた扉をくぐり、その後について集まっていた会衆も全員、正面扉を通じて聖堂内へと入った。そして2024年最後の主日のミサ、聖家族のミサが奉げられた。司教は説教の中で、普段は閉まっているが、聖年の一年間だけは開いて誰でもそこを通れるバチカンの聖なる扉について話し、この「扉を開く」ことに二つの意味があり、一つは外から扉を開けて中に入ることに

神の扉はいつでも開かれており、誰でも入ることが出来る。暗闇にいる人は光を求めて、無条件で神のもとへ来ることが出来ること、もう一つは自分の扉を開けて外へ出ていくこと——安泰を求めて閉じてしまっている自分の心を開いて外へ出て行くということを説明した。そこには広い命の世界、苦しむ人々が多くいる世界など、いろいろな世界が待っている。また、旧約聖書に語られていた聖年の話を紹介し、そこには慈しみ深い神の姿がえがかれていること

を解りやすく説明した。ミサの終りに、松浦司教の手から、各プロックや修道会の代表者一人一人に、聖年のロゴマークが描かれたタペストリーが授与された。巡礼手帖の説明もあり、この機会に指定教会を是非、巡礼するように促した。

また、この日は名古屋教区内のすべての小教区においても、ミサの中で松浦司教の出したメッセージが読み上げられ、聖年の開幕を告げた。

2024年12月29日 通常聖年開幕司教メッセージ

教区司教 松浦悟郎

はじめに

今年5月9日に、教皇フランシスコは、教会の伝統に従って、2025年を「聖年」とし、2024年12月24日に開幕すると正式に発表しました。聖年というのは、教皇が25年ごとに宣言する「聖なる年」のことです。聖年には、25年ごとに行われる「通常聖年」と非定期的に宣言される「特別聖年」があります。10年前の2015年に行われたには不定期的な聖年で、「いつくしみの特別聖年」と名づけられました。また、名古屋教区で

も2022年に教区設立100周年を迎えた際に、名古屋教区だけで行われる「教区聖年」を宣言し、皆さまと共に刷新の年を過ごしたことを思い出します。

今年、主の降誕を祝う12月24日に、教皇フランシスコはバチカンにて世界に向かつて聖年が開幕されたことを宣言しました。また、「部分教会」と呼ばれる世界の各教区では今日、12月29日(聖家族の主日)に一齐に開幕しますが、私たちも世界中の教区と心を合わせて聖年の歩みを始めるこ

とになります。希望のしるし 教皇フランシスコは、聖年を布告する「希望は欺かない」というタイトルの大勅書を発表しました。混んとした世界状況にあって、聖年がすべての人にとって、希望を取り戻す機会となるようにとの思いがこもった書簡です。私たちは、将来が予測できないために恐れや不信、落胆に陥りがちです。今後の生活の不安、能登大地震に続く災害や南海トラフ地震への恐れ、分断され、暴力的

になっっている世界情勢など、数え上げれば限りがありません。その現実の中にあっても教皇は私たちに、まず希望の言葉に立ちかえろうと呼びかけているのです。その原典は、「どんな被造物も、主イエス・キリストによって示された神の愛からわたしたちを引き離すことはできない」(ローマ8:35)という信仰です。年のロゴに、人々が海の上

り)となっっている十字架をつかんでいる絵が描かれています。それは信仰のしるしだけでなく、希望のしるしとして表現されているとおりです。現実の中で希望を実現していくために 私たちは現実の中でこの信仰の上に立ち、また揺らいだ時にはそこに立ちかえることで希望の道歩んでいくことができるとです。教皇はいくつかの具体的な事象を示しながら、私たちへの行動を呼びかけています。特に、希望を失いがちな現実をあげていますが、ただ、問題を指摘するだけではなく、その中で、キリスト者の共同体が「確かな希望のしるし」となるように訴えています。

教皇は、聖年のはじめの12月26日にローマの刑務所に赴き、全世界で収監されている人々のために「確かな希望のしるし」となるように訴えています。

「武器やその他軍事費に使われているお金で、国際基金を設立しようではありませんか。飢餓撲滅のために、その国の住民が暴力的解決や空振りの解決策に頼らなくともよいように、より尊厳のある生活を求めて国を離れる必要がないようにです」と。

私たちはここのように、私たちが無条件に愛され受け入れられる関係性によって人間として成長していく大切な場です。もちろん、現実にはさまざま

自分の立っている生活の場、個人として、共同体として受けとめ、実行していかなければ意味がないのです。

聖家族の一員として 聖年の開幕となる今日は、聖家族の主日です。聖家族とは、すべての人を救うために人となられたイエスと、そのイエスと共に歩むよう招かれたマリアとヨゼフの絆の姿ですが、それは同時に、私たちがキリストを中心にしてそれぞれに与えられた使命を共に生きる共同体の姿を象徴しています。この世の家族は、一人ひとりが無条件に愛され受け入れられる関係性によって人間として成長していく大切な場です。もちろん、現実にはさまざま

た「約束の地」、すなわち神の国の完成の姿なのです。そのためにキリストは人となって聖家族の中に生まれ、いつの日か、すべての人が神の家族となるようマリアとヨゼフと共に歩まれたのです。混んとした社会にあっても、いたるところでこの「約束の地」のために働き行動している人は宗教を超えて大勢います。これこそ希望のしるしです。私たちはこの善意の人たちと連帯しながら、「希望の巡礼者」として聖年を共に歩んでいきましょう。



通常聖年開門式の様子

ザビエル祭に参加して



名古屋教区一粒会は、神学生、神学院について、中高生の子供たちにもっと知ってもらおうと、去年2024年11月23日、東京にある日本力トリック神学校で行われたザビエル祭に招待する特別企画を立ち上げた。これに参加した中高生、スタッフのレポート、感想文を1月号に引き続き、掲載する。

長久保史央

12才 岐阜教会

僕は祖父に誘われてザビエル祭があることを知りました。なぜ参加しようと思ったのかと言うと、キリスト教のことを知りたいと思ったからです。

参加してみても、一番印象に残ったのは、神学生

の方がどんな司祭を目指しているかを伺えたことです。特に2名の神学生の方の「自分の命を使っ

て、みんなに優しくする司祭になりたい。」という

話に感動しました。神学院では、いろいろな

勉強(学部)があることを

知りませんでした。いろいろな地域から司祭になりたい

ところがあるので、また参加できる機会があったら参加したいです。

僕は、なかなか日曜日にミサに参加できずにいました。これからは参加して、積極的にミサの内容を覚えていきたいと思います。

高橋愛美

14才 聖心教会

私は11月23日に一粒会の方々とザビエル祭に行ってきました。

最初はザビエル祭がどのようなものなのか全く知らず、また、同じ聖心教会から一緒に行く友達もいなく不安でした。

でも、ザビエル祭について調べたり、シスターなどから「楽しんできてね。」や、「貴重な体験にきてきてね。」と言われ、どんどん興味を持ちました。

私が特に気になったことは、今回のテーマの「全ての人を一つにしてください」です。

この場面は、最後の晩餐のあとイエスが天を仰いで父に祈るところです。

イエスが殺される前に、父にわたしたちに永遠の命を与えるための栄光が欲しいと願って、

いつどこでもわたしたちのことを考えてくれていて、とても優しいと感じました。

でも、一つにすると言ってもどうやって一つにするのか分からなくて、とても気になりました。

それは、司教様の話を聞いて分かりました。司教様はいつもかぶっている赤紫色の帽子の代わりに、みかんのあたまの帽子と、みかんの着ぐるみを着て、みかんジュースについて話してくれました。まず初めに色々なみかんジュースに

ついて話してくれ、人間にも色々な人がいると言いつぎにみかんジュースの果汁について、果汁100%のみかんジュースから無果汁のものもあると言われました。

司教様は、「私が子供たちに神父様またはシスターになりたいと思っていて、とても優しいと感じました。」と

言っていました。司教様は、手を取って、

みかんジュースも無果汁でもジュースになれるんだから、気もちが無くても神父様、シスターになれると言っていました。そこで私は、みんなを一つにするということではなく、もともと一つなのではないかと思いました。

また、神学生のインタビューの皆さん。

佐々木結樹

17才 富山教会

ビューでは、なぜ神父様になろうとしているのか、と聞くともっと神様の事を伝えなければと思ったからや、外国では40歳だと神父様にならないのでここに来た、など、皆さん神父様になる決意があつてかっこいいと思いました。

私はザビエル祭を通して、気もちがなくても神様が選んでくださったらシスターになれるということ、神学生は皆、いろいろな決意を持っていることを学びました。

私はまだシスターになるという気持ちはないのですが、神様が選んでくださったら、それに応えていけるように、これからも中高生会をがんばりたいと思いました。

図書館の文献も様々あったが、その内容が論文に合うかを考えて、もし合わなかったら他の学校から借りることができて、そのなりたいたいと思う気持ちを支えているのだと思った。そして、神学生は、限られた環境の中で、どのように生きてい

けばよいかを深く考えているのだらうと思った。ミサの時には多くの人々がそこに集うので、テレビ中継の様なりモート環境で、東京は時代の最先端の技術を用いて凄いな、と感じた。神学院は開放的で過ごしやすかった。

世界には、今でも多くの人々が貧困などで苦しんでいることを再確認した。これからも奉仕を続けていきたい。

長久保公夫

岐阜教会 保護者

幼児洗礼は受けたが、その後引越して教会に縁が遠くなった孫が、ザビエル祭の参加を希望したきっかけで、カトリック神学校に行かせて頂くことができました。

とても有意義な機会を与えて頂いたこと、孫と一日過ごせたことに感謝します。

告げた。

終りにはSr.村上の厳かな「平和を求め祈り」とともに「主の祈り」が唱えられ、聖堂全体が祈りに満たされた。

今年は新型コロナウイルス流行以前に行われていたクリスマス聖歌を、来場者も交えて歌う場面が設けら

パイプオルガンと聖歌によるクリスマスのお話

昨年12月7日、南山教会聖堂で「パイプオルガンと聖歌によるクリスマスお話」のコンサートが行われ、約180人の観客を魅了した。

出演は、聖書朗読 村上多美代シスター(聖霊会)、ソプラノ独唱 伊藤晶シスター(聖霊会)、パイプオルガン演奏 吉田文さん(名古屋音楽大学・南山大学非常勤講師)と大久保明香さん(南山高校2年生)、そして名古屋グレゴリオ聖歌を歌

う会の皆さん。Sr.伊藤の先唱に導かれ、グレゴリオ聖歌による招きの祈りが唱えられると、オルガン演奏、聖書朗読へとつないでいく形で、主の降誕までの道りが表現され、聖堂内上部に位置する聖歌隊席から降り注ぐ豊かな教会音楽の響が、温かく教会全体を包んだ。

福音朗読による救い主誕生の告知をグレゴリオ聖歌が引継ぎ、さらにサン・サーンズのアベマリ



ア独唱によって聖霊による奇跡が豊かに表され、続くパツハ作品の独唱で主の生誕が高らかに祝われると、グレゴリオ聖歌の旋律が救い主の現れを



れ、「もろびとこぞりて」や「しずけき」を全員一体となつて笑顔で歌うことができた。会場で募った自由献金は、ホスピス聖霊後援会「ぶどうの会」に寄付された。

(名古屋グレゴリオ聖歌を歌う会 毛利知里)

めぐみカンガンバレ!!
.....by あこ

巡礼ツアー
うわ〜本物の聖地
高すぎて遠すぎて！

聖年の扉をくぐる
ローマ・パチカンの旅
7日間60万円

本物の聖地とは
どこにある？

神父さま？
あら残念
すれ違い
あんなに
遠い？

病院に
信者さんの
お見舞いに
シスターは？

炊き出しの手伝いに

あ〜巡礼に
すたいらし
でね

日々これ巡礼

(祭) 祭日(祝) 祝日(記) 記念日

2月の教会暦

2日(日)	主の奉獻(祝)
3日(月)	福者ユスト高山右近殉教者(記)
5日(水)	日本26聖人殉教者(祝)
6日(木)	聖アガタおとめ殉教者(記)
9日(日)	年間第5主日
10日(月)	聖スコラスチカおとめ(記)
11日(火)	「ルルドの聖母マリア」世界病者の日
14日(金)	聖チロロ隠世修道者 聖メトデオ司教(記)
16日(日)	年間第6主日
22日(土)	聖ペトロの使徒座(祝)
23日(日)	祝年間第7主日

3月の主な教会暦(主日・祭日など)

2日(日)	年間第8主日
5日(水)	灰の水曜日(大斎・小斎)
9日(日)	四旬節愛の献金(四旬節中)
16日(日)	四旬節第1主日
19日(水)	四旬節第2主日
21日(金)	聖ヨセフ(祭)
21日(金)	性虐待被害者のための祈りと償いの日
23日(日)	四旬節第3主日
25日(火)	神のお告げ(祭)
30日(日)	四旬節第4主日

9日(日)	安城教会聖信式*
11日(火)	祝樹の会
13日(木)	月集* / 顧問会*
15日(土)	信徒協設立50周年記念祭* / レジオ・マリエ「名古屋クリア」
16日(日)	南山教会厳信式* / 愛岐B会議
18日(火)	カトリック看護協会例会
22日(土)	濃尾B会議
27日(木)	司祭評議会*
2日(日)	城東B会議
3日(月)	北陸ブロック司祭会議*
4日(火)	カリタスのとサポートセンター運営委員会*
5日(水)	能登被災地視察*
7日(金)	世界祈禱日(布池教会)*
8日(土)	殉教者定例会 / 典礼委員会 / コアミレーティング / 信徒協役員会
9日(日)	三河B会議・司祭会議
10日(月)	城北B司祭会議
11日(火)	難民移住移動者委員会 / 樹の会 / 正義と平和学習会 / 月集*
13日(木)	神言会助祭叙階式* / レジオ・マリエ「アチエス」
15日(土)	教区祭壇奉仕者選任式(東山教会) * / 城北B会議 / 城南B会議
16日(日)	教区祭壇奉仕者選任式(東山教会) * / 城北B会議 / 城南B会議
18日(火)	カトリック看護協会例会
20日(木)	祝教区終身助祭叙階式(布池教会)*
21日(金)	名古屋教区司教座聖堂献堂記念日 / 祈りと償いの日(布池教会)*
22日(土)	カ障連黙想会(南山教会)*
27日(木)	顧問会*
29日(土)	教区法人評議員会*

建設費の返済に協力を

672件 36,003,214円
目標額 40,000,000円 (12月末現在)

達成率 約90.0%

郵便振替 00810-5-50605
加入者名 カトリック名古屋教区
通信欄に「福信館建設」と必ずご記入ください。

カトリック名古屋教区 信徒協50周年 感謝祭

日時 2月15日(土) 13:00(受付12:30)
場所 布池教会司教座聖堂
主催 カトリック名古屋教区信徒協協議会

プログラム
*第一部 信徒協50周年感謝ミサ
主司式 松浦悟郎司教
*第二部 能登半島災害チャリティ音楽祭
各教会音楽グループによる発表

*地下ホールにて、活動団体の広報ブース
詳細はホームページを参照
<https://nagoya-diocese.jimdofree.com/>

告知板

◇2月の炊き出し
木6日東山、13日布池、20日聖霊・南山・樹の会、27日城北橋
金7日喜望の会、14日南山、21日布池、28日一宮

2月
6日(木) 常任司教委員会 会議
7日(金) 終身助祭委員会 会議
17日(月)〜21日(金) 臨時司教総会
3月
6日(木) 常任司教委員会 会議

教区行事以外の松浦司教予定

〈カルメル修道会日比野修道院、講座、黙想企画〉

【旧約聖書から学ぶキリスト教霊性】
—キリストの十字架の恵みをより味わうために—
日時 2025年2月15日(土) 14:30~16:30
テーマ 列王記の全体構造とメッセージ
持ち物 必ず聖書(旧約+新約)をご持参ください。
場所 カルメル会日比野修道院(日比野教会)、参加費無料
どなたでもご自由にご参加ください。
担当 志村武神父(カルメル修道会)
問合せ 日比野修道院(052-671-1003)
以降の予定 3月15日(土)、4月26日(土)、5月17日(土)、6月21日(土)

【静修の集い】
日時 2025年3月8日(土) 10:00~15:00
講話担当 今泉健神父(カルメル修道会)
テーマ 四旬節を十字架の聖ヨハネに就いて歩む
スケジュール 講話①、ご聖体顕示、昼食、講話②、ミサ、茶話会
参加費 無料(自由献金をお願い致します)。どなたでもご自由にご参加ください。
持ち物 昼食(各自持参)
問合せ 日比野修道院(052-671-1003)

第37回 名古屋教区障害者連絡会 四旬節黙想会のご案内
～障害を持つ人々と共に～

テーマ 希望の福音(よろこびのメッセージ) 参加費 無料(昼食として弁当の用意あり。希望者は申し込みを。500円)
日時 3月22日(土) 9:30~16:00 問合せ カリタス福祉委員会、教区障害者連絡会
会場 南山教会マリア館2階ホール 電話 052-852-1426
名古屋市昭和区南山町2
電話 052-831-9131
(要約筆記・手話通訳あり)
指導司祭 松浦悟郎司教(名古屋教区長) *詳細は第83号会報をご覧ください。

「世界祈禱日」2025開催のお知らせ
クック諸島からのメッセージ
—わたしたちはおそろしいほどに、すばらしく造られています—

日時 2025年3月7日(金)
9:30 受付開始
10:00 讃美歌練習
10:30 礼拝開始
12:30 閉会
場所 カトリック布池教会

多くの皆様のおいでをお待ちしています。
信徒使徒職協議会
会長 平松富男
名古屋教区カトリック女性の会「樹の会」
会長 金森タイ
(窓口 090-7024-9626)

「世界祈禱日」とは、アメリカのプロテスタントの女性信徒たちが始めた100年以上の歴史を持つ催しで、今では全世界に広がる教派を超えた女性キリスト者たちの集いになっています。毎年3月の第1金曜日に世界各地にそれぞれに集まり、定められた一つの国の特に女性と子供たちを共通の祈りと献金によって支えています。日本の名古屋地区は、カトリック・聖公会・日本基督教団・日本福音ルーテル教会・在日大韓基督教教会・救世軍の6教派から成り、持ち回りで主催しています。2025年はカトリックが当番で、布池教会に集まって戴き標記の南半球クック諸島のために祈ります。

名古屋教区終身助祭叙階式のお知らせ

下記の日程でヨハネ・マリア・ヴィアンネ 秋元伸介氏(カトリック南山教会)の名古屋教区終身助祭の叙階式が行なわれます。

日時 2025年3月20日(祝・木) 午後2時より
場所 カトリック名古屋教区司教座聖堂(布池教会)
司式 カトリック名古屋教区長 司教 ミカエル 松浦悟郎

2025年度 祈りを深めるための研修会

神との交わりを深め、神のみ心を見出しながらキリスト者として成長するために、様々な祈りを学びます。実際に黙想を体験し、それを参加者同士で分かち合うことを通じて、一步一步自分の祈りを深かなものとしていきます。
この研修会は、東京のイエズス会無原聖母修道院(黙想)で女性センター「せせらぎ」によって開催されている「祈りを深めるための研修会」と同じ内容です。

会場 主権町記念聖堂(名古屋市中区3-8-33) 高島駅1番出口徒歩9分
日程と内容(受付)9:30、(プログラム)10:00~16:00、(ミサ)16:00~(閉会)

第1回 2025年4月12日(土)【祈りとは】
第2回 2025年5月31日(土)【生活を素材に祈る】
第3回 2025年7月12日(土)【自然を素材に祈る】
第4回 2025年9月27日(土)【み言葉を素材に祈る】
第5回 2025年11月8日(土)【家講の究明】
第6回 2026年3月7日(土)【祈り返りと祈りの同伴】

スタッフ: 鈴木 隆【イエズス会女性センターせせらぎスタッフ】、他4名
参加費: 毎回2,000円です。各回ごとにお支払いください。
対象: 黙想によって日々の霊的生活を深めたいと願っている方。(カトリック信者に限りません)
原則として全日程参加をお願いします。
定員: 20名 定員になり次第締め切ります。
申込締切: 4月5日(土) 右のQRコードから申し込んでください。
問い合わせ先: 担当 / 新谷・悦上
TEL.050-5897-5106

主催: せせらぎin名古屋
協力: 名古屋教区福音化養成委員会